

内水氾濫(浸水) 後掲・ハザードマップ P49～P58参照

市街地などに豪雨が降ると、下水道や用水路から大河川への排水が追いつかず、雨水が地上にあふれ出します。また、降水量が多くなると大河川に排水できず、中小河川から氾濫が発生します。地下街など地下空間へ雨水が流れ込むため、注意が必要です。

地下空間・浸水の危険を知ろう

- 地上の様子がわからず、逃げ遅れる危険がある。
- 地上が冠水すると、地下に水が流れ込み階段を上がれなくなる。
- 20cm浸水すると、水圧で部屋のドアは開かなくなる。
- 鉄道や道路の下をくぐる場所(アンダーパス)は、水がたまりやすいので大雨のときは通らない。



河川の氾濫(洪水) 後掲・ハザードマップ P59～P62参照

大雨などで河川の水が堤防からあふれる、また堤防が決壊して氾濫が発生した場合は、甚大な被害が広域に及ぶ危険があります。国や都道府県では気象庁と共同で河川の水位の変化に応じて洪水予報を発表しています。

常滑市では、河川の状況をリアルタイムに監視できる**防災カメラ**を設置していますので、避難行動を行う目安として活用できます。

常滑市防災カメラ



●雨風が強まる前の家の対策

雨どい

落ち葉や砂が詰まっていないか確認する。

庭木

飛ばされたり、倒れないように固定する。

雨戸

しっかりと閉まるか点検する。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高い物は室内へ。

側溝

側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水をよくしておく。

ブロック塀

ひび割れや破損がないか確認する。

屋根瓦やトタン

めくれているか、壊れていないか確認する。

外壁

亀裂や腐食などは早めに修理。プロパンガスはしっかり固定する。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のがたつきはないか確認。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置をとる。

被害が心配されるときは

非常持ち出し品の準備

警戒レベル3(警報)以上や避難指示などの避難情報が出たとき、すぐに動けるように、貴重品や非常持ち出し品の準備をしておく。



停電に備える

懐中電灯や携帯ラジオ(手動式など)、携帯電話・スマートフォンのモバイルバッテリー、予備の電池を準備しておく。



家財道具等を

高い場所に移動させる

水に浸かってしまった家財道具は一瞬にして「災害ゴミ」となってしまいます。家電製品や貴重品、衣類などは早めに2階などの高い場所に移動させましょう。



安全な場所に避難する

被害が想定される場合には、事前に子どもや高齢者などを避難所などの安全な場所に避難させておきます。



断水に備える

飲料水を確保する。また、浴槽に水をためるなどして、生活用水の確保も忘れずにしておく。



水害・土砂災害から避難するときのポイント

避難は早めに

なるべく周囲が浸水する前に**地域で声をかけ合って**避難しましょう。特に夜間に大雨が予想されるときは、夕方までに避難しましょう。



動きやすい服装で

荷物は最小限にして背負い、両手が使えようにしましょう。長靴は水が入って動きにくくなるので、**運動靴**で避難しましょう。



前兆現象に注意

土のにおいがする、川の水が減少する、地鳴りがするなど**「前兆現象」**が発生していたら、それは部分的に土砂災害が始まっている証拠です。避難情報などが出ていなくても、自分で判断して避難しましょう。



危険区域から離れる

不安を感じたら、避難場所や避難所に行かない場合でも、念のため土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所から離れましょう。



浸水後は車で避難しない

車は浸水でエンジンが止まったり水没したり、誤って川に転落して命を落とす危険があります。**車の場合は、浸水前に避難しましょう。**



避難が遅れたら

危険区域外への避難が困難になった場合は、なるべく頑丈な建物の2階以上で、斜面から離れた位置の部屋に避難しましょう。



河川などに近づくない

増水した河川など危険箇所の**様子を見に行くことは、絶対にやめましょう。**



安全が確認されるまで帰らない

土砂災害警戒情報や大雨警報、避難情報などが解除され安全が確認できるまでは帰宅しないようにしましょう。



「避難」は「難」を「避」けること

避難は**難を避けること**です。指定された避難所*や安全な知人・親戚宅に避難する「立ち退き避難」が基本ですが、**安全な場所(自宅が安全な場合を含む)にいる人は避難所に行く必要はありません**(今いる建物内で安全を確保する「屋内安全確保(在宅避難)」)。

危険を避けるにあたっては、普段からハザードマップを利用して、自宅やその周辺の災害を確認しておき、いざというとき、**「誰」と「どこ」に「どのように」避難するのか**家族で話し合い、**マイ・タイムライン(P17～P18参照)**を作成しておきましょう。

また、宿泊費が必要になりますが安全なホテルや旅館があれば、そこへの避難も可能です。

*避難所は災害ごとに決められています → P11参照